

かみ ふく まん 上 福 万 遺 跡

よなごしかみふくまん だいせんせいらく さだかわぞ
米子市上福万の大山西麓の佐陀川沿い
ひょうこう せんじょうち りつち
の標高70mの扇状地に立地する遺跡です。
じょうもんじだい いぶつ いこう かく
縄文時代から江戸時代の遺物や遺構が確
にん
認されていますが、特に注目されたのが
しゅつど じょうもんじだい そうき
大量に出土した縄文時代早期（8千年前
いぶつ いこう
）の遺物と遺構です。

発見された早期の土器は底が尖った深
ばちがた だえん やまがた おしがたもよう よりいと
鉢形で、楕円や山形の押型文様や撚糸の
もよう
文様などが付けられています。中でも注
もく
目されたのが、ひらがこいしき
平椀式と呼ばれる九州を
ぶんぷ
中心に分布する土器が出土したことです。

写真の土器はせんてい ほうだんがた
尖底で砲弾形の高さ 56 cm
だえんおしがたもん
の楕円押型文の大きな土器です。

現在、土器はふくいちこうこしりょうかん てんじ
福市考古資料館に展示してあります。



楕円押型文土器